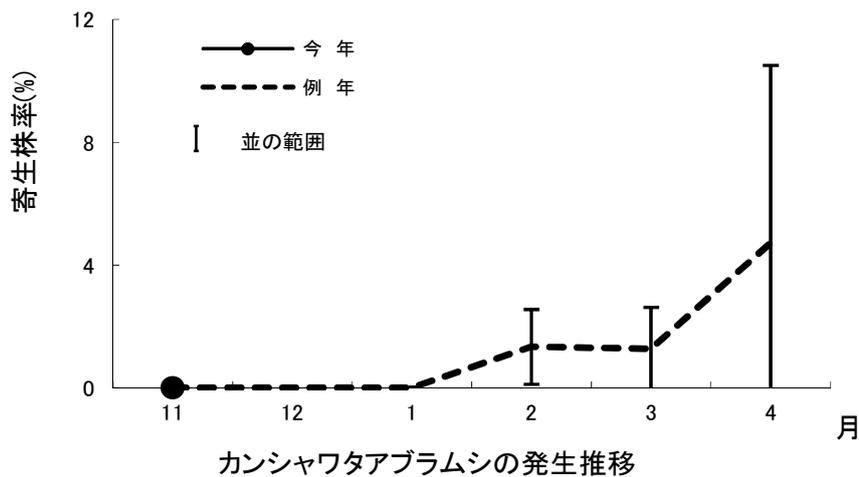


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	カンシャワタアブラムシ		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生株率の例年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

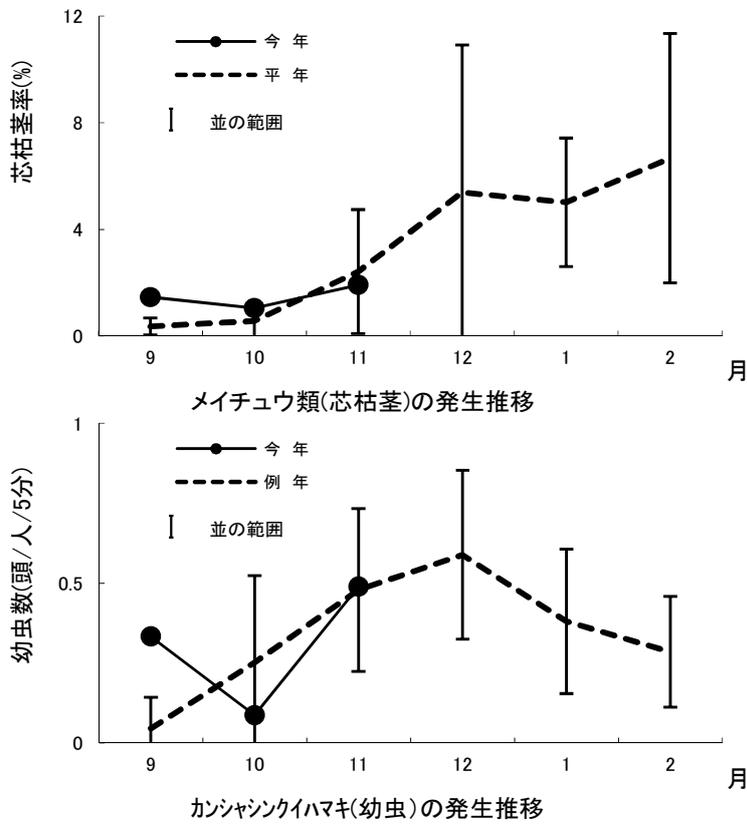


防除のポイント

- ・大発生すると吸汁害及びすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である。
- ・薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- ・収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意する。
- ・捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。
- ・多発生時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ)		
11月の発生量(現況)	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率と幼虫数の平年(例年)の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



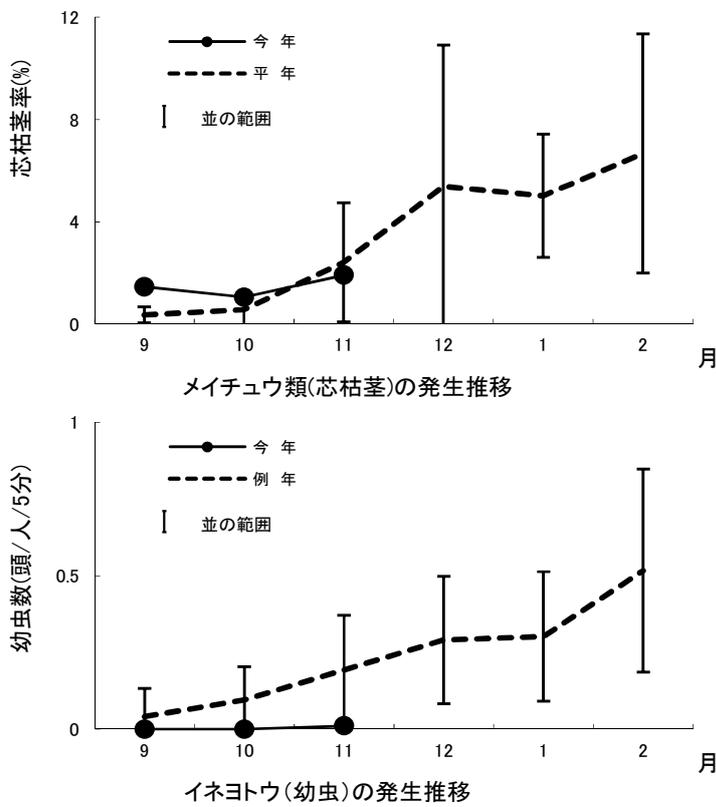
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の98%がカンシャシンクイハマキだった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島で多発生。

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
11月の発生量(現況)	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	芯枯茎率と幼虫数の平年(例年)の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)



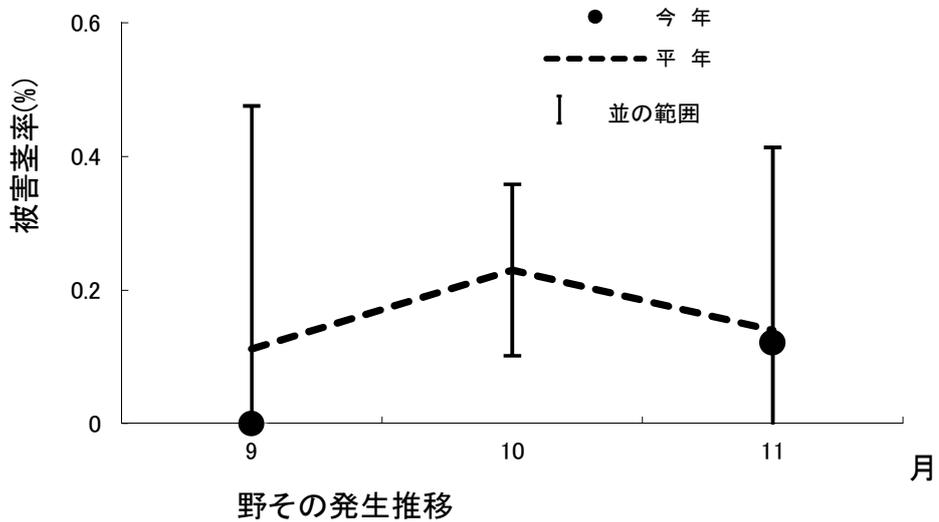
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類の2%がイネヨトウだった。
- ・ 防除員の報告によると、久米島で多発生。

防除のポイント

- ・ 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	③ 野そ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	収穫前に糖度が上昇してくることから、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 八重瀬町の一部ほ場で多発した。
- ・ 防除員の報告によると、久米島で多発生。

防除のポイント

- ・ 管理されていない耕地などで繁殖するので、ほ場周辺も含めて雑草防除等の管理作業を行う。
- ・ 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。